

鹿屋市立鹿屋小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、令和 3 年度～令和 4 年度、市内全小学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下述の 時数を確保し、現行の学習指導要領（外国語活動・外国語科）を踏まえて、「英語科」として先進的な英語教育の実践研究を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学 1 年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校 6 年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成し、小・中一貫による英語教育の推進を図ることを目指しています。

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年 (教科)	6 年 (教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book Picture Dictionary	教科書 My Book Picture Dictionary	

鹿屋市の英語教育の目指す生徒像

「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒の育成」子どもたちが英語の学習に主体的に取り組み、コミュニケーション能力を育成した結果、郷土の課題解決に貢献したり、グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献したりする人材の育成を目指します。子どもたち・先生方・学校・保護者・地域が一体となって、「わくわく」するような授業を一緒につくり、多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」の育成を目指します。

2 本校の教育目標

つよく かしこく すなおで 瞳が生き生きと輝き 笑顔あふれる子どもの育成

3 本校の令和 3 年度英語教育の実践について

- (1) 1・2 年生の取組（年間 20 時間実施）
 - ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
 - ・ 歌やゲーム、チャンツによる英語に親しむ活動
 - ・ 英語絵本の読み聞かせ など
 - ・ コミュニケーションポイントの指導(主に態度面)
- (2) 3・4 年生の取組（年間 35 時間実施）
 - ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
 - ・ ゲームやチャンツを通した子ども同士の交流活動
 - ・ 英語絵本の読み聞かせ など
 - ・ コミュニケーションポイントの指導

- (3) 5・6年生の取組（年間70時間実施）
- ・ 担任とJTE（ALT）とのTTによる指導
 - ・ Small Talk の充実
（オールイングリッシュタイム・児童同士のやり取りを続ける力をつける）
 - ・ 自らの思いを英語で豊かに表現する言葉さがし など
 - ・ コミュニケーションポイントの指導

(4) 鹿屋市各地区英語教育圏推進会議について（小中一貫教育）

第1区にて、追究すべきテーマを決定し、各校において授業実践を行うとともに、本校英語課主任が代表者として授業公開した。その授業の中で学びを進める子供たちの姿をもとに授業研究を実施し、指導法の共同研究および共通実践事項の検討を行うなど、地区が一体となった研究体制を築くことができている。

(5) 校内研修体制について

県総合教育センターおよび鹿屋市教委と研究提携し、英語班を中心に授業を通じた英語科指導法の先行研究を進め、次年度には研究の成果・課題を整理し、全学級での共通指導・共通実践をしている。

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

(1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は楽しいですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
楽しい	80.0%	60.5%	65.5%	47.1%	56.3%	60.3%
どちらかというと楽しい	10.5%	29.6%	16.1%	31.8%	35.0%	35.2%
あまり楽しくない	6.3%	7.4%	13.8%	16.5%	5.0%	3.4%
楽しくない	3.2%	4.5%	4.6%	4.7%	3.7%	1.1%

(2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
54.8%	45.2%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 英語でも日本語でも、相手に思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりする積極的コミュニケーションが育つこと。
- ・ 誰とでも自分からコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 互いを理解しようとする態度が育成されること。
- ・ 外国の人（先生）やJTEを通して異文化に触れて興味を持つ。 ・外国の人と仲良くしたいという気持ちを持ち、仲よくなるには、外国語を使うとよいことに気付き楽しく学んでいくこと。

(3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
42.2%	39.1%	14.6%	4.0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述、一部抜粋)

- ・ 英語教育を受けることによって外国語への興味がわいたり、抵抗なくスムーズに他言語を受け入れられたりするように楽しく学ぶこと。
- ・ 1年生から英語を学ぶ事で視野が広がり、なりたい職業も広がって行く事に繋がると期待している。海外の人とも違和感を抱く事なく、コミュニケーションが取れたら良いと思う。
- ・ 実際の英語でのコミュニケーション能力が身につくこと。
- ・ 小中一貫教育を見据えた場合、英語教育に対し1年生からスタートされた方が自然に特別感なく耳に入りすんなり日常に入り込んでいくのではと思う。
- ・ 難しいと思わせず、コミュニケーションのツールだと思える様な授業であって欲しい。A. B. C だけじゃなくフォックスの音を1年生からすると為になるのではないかなとも思う。
- ・ 6年卒業時に英検5級を大半の児童が取得できるぐらいであれば、中学校に入ってから勉強が楽になる。そして小学校で英検が受けられる体制が整えばなお嬉しい。中学校の最初から英検を始めても、3年時に受験時期に掛かるため、2級、準2級までしか挑戦が難しくなる。中学生で準2級以上を取得するため、小学校の授業の中でそこを目指してもらえら、嬉しい。何かに挑戦したい!という気持ちは中学生より小学生のほうが持っている気がする。自信をつけるきっかけになるのではないかなと思う。
- ・ 英語を嫌いになる要素をできるだけなくしてほしい。英語学習が低年齢化したせいで中学に入るまえに既に英語嫌いの生徒が多くいるらしい。専門的に教科英語を学んでない方は、教え方には、かなり注意したほうがいいと思う。
- ・ 何もない。そもそも英語を教えているの?それとも英会話の授業?

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
70.0%	30.0%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述、一部抜粋)

- ・ 学習のみに英語にならず、話したり、楽しくコミュニケーションしたりするツールとして使えること。
- ・ 耳で聴いて英語をたくさんインプットしてほしいので、休み時間などのBGMに沢山聴かせてほしい。
- ・ コミュニケーション力の育成、英語を好きになり親しむことのできる子どもの育成、異文化への興味・関心を高めてほしい。
- ・ 英語に苦手意識が出る前に、英語でのコミュニケーションが当たり前の感覚を身につけてほしい。完璧な英語が話せなくても、コミュニケーションははかれるので、一単語でも聞き取る・話し

すことを日常に取り入れてほしい。

- ・ 話す能力ではなく、会話する能力を育てる教育をして欲しい。

5 令和4年度の実施について

(1) 1・2年生の実施（年間20時間実施予定）

担任とALT（JTE）による指導

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(2) 3・4年生の実施（年間35時間実施予定）

担任とALT（JTE）による指導

外国語によるコミュニケーションにおける見方考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(3) 5・6年生の実施（年間70時間実施予定）

担任とJTE（ALT）による指導

外国語によるコミュニケーションにおける見方考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(4) 鹿屋市英語教育圏推進会議と鹿屋市各地区英語教育圏推進会議（小中一貫教育）について

- ・ 英語科主任および在籍JTEを中心に各校と連携をとって研究を深める。相互に授業提供をしあうことで、教師の指導力向上を図るとともに、英語科授業の充実を図る。

(5) 鹿屋市小中学校英語弁論大会（小学校：スキット部門）について

- ・ 本年度より参加するため、計画的に準備・指導をしている。

(6) グローカル・イングリッシュキャンプについて

- ・ 児童への積極的な参加を呼びかけている。第1回5人参加

(7) 国立台北教育大教育実習生の受入による交流授業並びに遠隔授業について

- ・ 市教育委員会の指導の下に実施していく。

(8) スピーキングクエストの実施について

- ・ 学期に1回、6年生が実施する。

- (9) 校内研修体制（イングリッシュガイドブック・学習指導案等の活用）について
- ・ イングリッシュガイドブックを基本に、英語教育圏推進会議の研究テーマを追究するとともに、本校児童の実態に応じた本校研究テーマを追究する。
 - ・ テーマ研究に関しては、英語班で授業を通した先行研究を進め、2月のオープンスクールでその実践を公開する。年間の研究の成果と課題をまとめ、来年度より全校での共通指導・共通実践を進める。
 - ・ 授業実践については、年間2回の相互参観授業を実施する。（英語班を中心に）その実践の中で、子供たちの学びの姿から授業を分析し、指導法の改善に繋げる。